

コンピュータ学習教材「英語の森」

くわしい指導の手引



リヴォルヴ学校教育研究所 小野村 哲

日本語の読み書きに困難を示す子は、全体の3%弱とされています。しかし英語では、その割合が数倍にもなるという調査報告があります。最新の脳科学の研究成果をみると、日本語を第一言語とする子ども達が外国語としての英語を学ぶ場合には、さらに高い割合で読み書きに困難を示すことも予想されます。読み書きでのつまずきは、聞くことや話すことにも少なからず影響を及ぼします。

本教材は日本人学習者の特徴に配慮しながら、そのつまずきを事前に回避・軽減することを目的として製作されました。コンピュータがあれば、簡単な操作でゲームを楽しみながら、着実にコミュニケーション能力の素地を養うことができます。以下を参考にさせていただき、授業の前後5分間に、また個別学習教材として、有効活用いただければ幸いです。

Alphabet Order (アルファベット オーダー)

- ・ 絵の中に入るアルファベットを下から選び、ドラッグします。
- ・ 一段完成したら、 ボタンを押して次に進みます。



学習のねらい

アルファベット 26 文字を目で見て区別できるようにするための練習です。

簡単に思えるアルファベットですが、形がシンプルであるためにかえって記憶に残りにくいことがあります。b と d、p、q や n と u、h、m、r、u を混同したりすることも珍しくはありませんし、ここで大きくつまずいて英語を苦手としてしまう子もいます。いきなり正しく書かせようとするのではなく、まずは目で見て区別ができるようにじっくりと練習させたいものです。

ここでは絵の中に文字を組み込むことで、文字形を印象づけるようにしています。特に混乱しやすい b はまず大文字をしっかり練習した後に、「バットとボール。大文字はボール 2 個だけど小文字はボールが 1 個になるよ」などとします。d は「c の次は…」と言いながらまず c を書いて、次に「ディー」と言いながらたてぼうを書きます。b と d については「b はたてぼうから、d は c の部分から」と書き順で区別させるのも有効です。h は「馬 (horse) の形」、n は「ナースの髪の毛」、r は「ウサギ (rabbit) が上から跳んできて、ぴょんぴょん」、u は「cup の u」などの要領で教えます。

J を「し」のように書く子には、「リフトはどっち向きに進んでいた」と声をかけてみてください。p は「モグラたたきはどっち向き」、q は「数字の 9 と同じ向き」と言いながら、b と d については左右の手で OK マークをつくって覚えさせるのも方法です。(* 準拠の「ABC 英語れんしゅうちょう」を参照してください。)

小文字の l を i の大文字と混同してしまう子もいます。l は「ローングの l」、I は「キリンの首に蝶ネクタイを 2 つ。ときどきはしちゃうけど」などと言葉を添えてみてください。

Capital & Small (キャピタル アンド スモール)

- ・ カードの下に隠された小文字 (大文字) を下から選んで、クリックします。
- ・ 迷っているときには、 ボタンを活用してください。



学習のねらい

大文字は覚えられても小文字が難しいということがあります。ここでは大文字が小文字に変化していく様子を見ながら、相互に関連づけて覚えられるようにします。最初は「似ている文字はどれかな」などとして、大文字に対する小文字、小文字に対する大文字を推測させてみてください。必要があれば  ボタンを活用します。大文字を選ぶ場面では、カードが一瞬消えて正解を見ることができます。小文字を選ぶ場面では、大文字が徐々に小文字に変わっていく様子を見ることができます。D dは、「ドウ・ドウ・ドアがボタン」と教えるのも方法です。

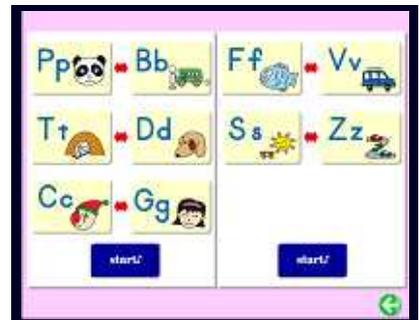
このあとの「フォニックス」の練習では、文字を打ち込むマスを右図のように示すことで lake とすべきところを rake とする間違いを防ぎます。l と r の音を聞き分けられるようにすることが理想ですが、それだけで単語を正しくつづるのはなかなか難しいことです。単語の形を目で見えて覚えるこの方法は、gym を gim とつづったり、thank とすべきところを sank とする間違いを防ぐのにも有効です。「大文字はすべて2階建て」「2階建てが1階建てになったよ」「地下室にもぐったよ」などとしながら、文字の位置も確認しましょう。

lake 

ここでは一般的とされる書き順を示しましたが、アルファベットの書き順はひらがなや漢字のように厳密ではありません。先述したように b と d などは書き順を区別するのも有効ですが、N などは「N 君の足から頭」と言いながら一筆書きにさせたほうが混乱が少なくなります。それぞれに適した書き順を工夫してみてください。

Name & Sound (ネーム アンド サウンド)

- ・ カードをクリックすると、一文字ずつ文字音を聞くことができます。
- ・ スタートボタンを押すと、グループごとにリズムに乗せて練習できます。



学習のねらい

アルファベットには、名前とは別な読み方 (音) があることを確認し、それぞれの文字音を習得します。コンピュータが「P」と言った後、「プ・プ・パンダ」といっしょに発音してみてください。

しかし、ただ耳から聞かせるだけでは、f の音 (フ) を p の音 (プ) と混同するようなこともあります。日本語にない th の音などは、「わからない」ということにもなりかねません。英語を学ぶ際、「カタカナを用いるのは良くない」という考えもありますが、それも使い次第です。耳からの情報に強い子でも、「milk はミルクではなく、ミウクまたはメウクのような感じかな」と基準を示してあげたほうが上達が速くなります。最初は準拠の練習帳を参考に、カタカナの音をもとにしながら練習します。その上で、日本語の「フ」と英語の f の音は「似ているけど、ちょっと違うね」と、その違

いを意識させるようにします。耳からの情報に弱い子には、m は「唇を閉じて」、n は「唇を閉じずに」、r は「軽くウと言ってから発音するといひよ」などと口形や舌の使い方を具体的に示してあげるのも方法です。

本教材を使つての学習では、「気づき」が1つのキーワードとなります。アルファベットには名前とは別な読み方があること、そして音の足し算で単語ができていること。最初にここに気づいた子とそうでない子とでは、その後の学習で大きな差ができてしまいます。「ワード マッチ」や「フォニックス」の基礎ともなる練習です。十分な時間をとつて、繰り返し練習するようにしてください。

Word Match (ワード マッチ)

- ・ 赤い針が指している絵にふさわしい単語を、右から選んでクリックします。
- ・ 出題形式は4パターンあります。慣れてきたら、できるだけ速く選べる(読める)ようにします。



学習のねらい

まとまった英文を読む際に、文脈や場面から内容を推測して読む力をつけるための基礎練習です。

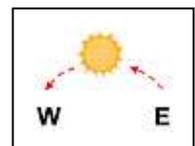
文を読む際には、文字を順番に音にしていくと同時に、「こんなことが書かれているのだろう」と推測を働かせながら読むことが大切です。たとえば「霞ヶ浦は日本で2番目に大きな□です」のような文を見ても、私達はそこに隠されている漢字が「湖」であることを推測できます。これができないと、shampoo という単語を見ても、「シャ、シャム、シャムポー」などと読んで、「わかりません。習っていません」などということになりかねません。

また読みを苦手とする子は、1つわからない漢字や語句があるとそこだけに注目しがちです。文中に繰り返し shampoo が出てきても、そのたびに「シャ、シャム」としていたら読みの速度も遅くなりますし、そうしているうちに全体として何が書かれていたかを忘れてしまうこともあります。それに対して読みを得意とする子は、文脈や同じページに添えられたイラストなどを見ながら推測を働かせ、総合的に判断して単語を読み、またそうして語彙を増やしていきます。

ここでは先に絵を見せて、「この絵は何?」と問いかけます。「ピッグ」がわかれば、「それじゃ、pig と読む単語を探してみて」とします。punch の絵を見てボクシングと答えた場合には、「それも正解。でもここでは p で始まる単語だよ」として punch を探し出せるようにします。わからないときは絵をクリックして音を聞きますが、その前に画面右の単語カードに目を通させるのも方法です。

どこかで耳にしたことがあるような語を中心に取り上げていますので、pan はフライパン、burn はガスバーナーなどに結びつけ、日常生活の中で学ぶ習慣も身につけたいものです。「shell というお店では、何を売っているかな。街で看板を探してみよう」などを課題として与えるのも有効です。

restaurant などは音声化するのが難しいかもしれませんが、しかしそこでもまずイラストを見せた上で、「res__rant、レス__ラン?」から正解を導き出せるようにします。これから先の学習のためにも、「難しい部分(-tau-)はひとまずおいておいて、わかるところから考えてごらん」と助言してみてください。たとえば将来、The sun (rises) in the east and sets in the west.のような文にふれたときにも、「rise の意味を忘れちゃった」といってそこで立ち止まるのではなく、また「まだ習っていません」として辞書や先生にその意味を教えてもらうのではなく、その先を読み進め「太陽は東から()って、西に沈む」から「昇る」という意味を導き出せるようにしたいものです。



Phonics (フォニックス)

- ・ キーボード タッチまたはボタン クリックで単語を完成させます。キーボードは半角英数モードに設定してください。
- ・ Step 2 ではランダムに出題されます。3回間違えると、練習モードに切り替わります。



学習のねらい

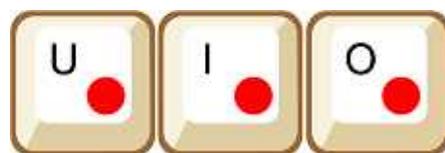
日本人の子ども達が苦手としがちな、音の足し算、引き算（フォニックス）の練習です。本教材のもう1つのキーワードは「バランス」ですが、「フォニックス」は「ワード マッチ」と並行して練習するようにしてください。

英語のつづりにもある程度の規則性があります。たとえば ea のように母音字が2つ並んだ場合には、前の母音字は名前読み（この場合はイー）となり、後ろの文字は発音されません。これを「礼儀正しい母音のルール」と言ったりします。これに気がついた子は、tea という一つの単語をもとに、eat、team、meat、each、teach、beach、peach などそれぞれたくさんの単語を効率的に読んだり書いたりできるようになります。

まずは文字選択画面で、これからどのような読み方をするどんな文字を含む語を練習するのかをよく確認します。次に練習画面に移ったら、単語の読みを聞く前に、どのような単語が出題されているのかを推測させます。ea を含む語の練習では最初に「食べる：eat」が出題されています。何度目の練習であればここで音を聞かせるのも方法ですが、初めてこれを練習する際にはまず [?] ボタンを押させて最初の2文字が ea となることを確認します。その上で、「食べるって英語ではなんて言うだろう。A/E/T/I を組み合わせて単語を作ってごらん」とします。それができたら「よくできたね。それじゃ eat は何て読むの？」と発音させた上で音声を確認します。

eat のあとには tea、pea、peach、beach と続きます。それぞれ「さっきとどこが違ったの？」と問いかけてみてください。beach の絵を見て「パラソル」を連想したような場合には、その前に練習した「peach と似ている単語だよ」しながら、さらに「A/E/C/T/B/H」の選択肢を参考にして、絵が表わす単語を推測させるようにします。

母音字と子音字の組み合わせで単語がつくられていることを意識させるためには、キーボード上の A/U/O/I/E に赤いシールを貼るなどするのも効果的です。



さて、最初にお話した「礼儀正しい母音のルール」についてですが、2つの母音が並ぶ単語全般でのこのルールの適用率は48%（Clymer, T.1963）に過ぎません。母国語として英語を学ぶ子ども達はフォニックスを学ぶ前にすでに多くの語を生活の中で身につけていますが、外国語として英語を学ぶ子ども達にこのようなルールを教え込んでしまうと、例外的な読み方をする単語に戸惑い、かえって混乱してしまうこともあります。

繰り返しますが、「フォニックス（音の足し算、引き算）」の練習は「ワード マッチ」で行ったような場面や文脈から推測して読む練習とのバランスを取りながら行うことが重要です。フォニックスに偏った教え方をされた子は Penguins are birds but they cannot fly. のような文を見ても、penguin を「ペンガイン」などと読んでしまいがちです。これは部分だけを見て、文全体を見て考えることを怠ってしまうためです。

一方、気づきに欠ける子は lake や rake、bake、cake、make、take もひとつひとつを練習しなければ覚えられません。しかし lake（湖）を rake（熊手）とつづらないようにするためには、理屈抜

きでカメラに写すようにして単語を覚えるのも有効な方法であることをお話ししました。penguin の中でなぜ g のあとに u がくるのか、これをフォニックスのルールとして教えることもできなくはありませんが、入門期にこのようなルールまで教え込もうとしたら、子ども達はかえって混乱してしまうでしょう。

ここではルールとして教え込むことを避け、同じパターンの語を繰り返し練習することで、つづりと音との関係に気づきをもたらすことを目的としています。ow と oo については、それぞれ「オウ」と「アウ」、「ウー」と「ウ」と発音される場合とを取り上げていますが、他の組み合わせもここで示した音とは違った読み方をすることがあります。たとえば漢字でも「海豚」を「イルカ」と読むことがあるように、ea は必ずしも「イー」と読むわけではないことも付け加えていただければと思います。

ご質問やご意見・ご感想をお待ちしております。

コンピュータ学習教材「英語の森」は、私どもの長年の実践と研究の成果を教材としてまとめたものです。しかし今回お届けしたものは、開発を計画しているもののまだ数分の一に過ぎません。私どもでは今後も内容の一層の充実、改善に努めていきたいと考えております。

つきましては、皆様のご意見やご感想をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

- ・ ご意見、ご感想をお寄せいただいた方には、文字音の導入に際してご利用いただけるパワーポイント・コンテンツをお送りいたします。
- ・ ご意見やご感想は、「リヴォルヴ学校教育研究所」ホームページ(<http://www.rise.gr.jp/>)左下の「RISE へのメール」よりお送りいただけますようお願いいたします。
- ・ パワーポイント・コンテンツはお送りいただいたメールのアドレスに、返送させていただきます。

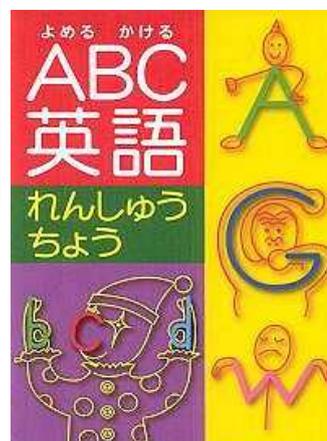
準拠教材 「よめる かける ABC 英語れんしゅうちょう」

A4 判 64 ページ 価格 700 円 (税込み)

児童生徒用として 10 冊以上まとめてご注文いただいた場合は、
学校納入価格 450 円 を適用させていただきます。

みんなで支える 子ども達の豊かな学び・育ち

これらの教材販売によって得られた収益は、不登校児童生徒や学習につまずきがちな子ども達の支援など、教育環境の一層の充実のために活用させていただきます。



教材についてのお問い合わせ・お申し込みは

特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所

〒305-005 茨城県つくば市二の宮 4-8-3 1-404

TEL & FAX 029-856-8143

ホームページ <http://www.rise.gr.jp/>

E-mail rise@cure.ocn.ne.jp